

発行所

社団法人 埼玉県電業協会

〒336-0031 さいたま市南区

馬手袋4-1-7(運産運会館内)

TEL 048(864)0385

URL <http://www.saidenkyo.jp/>

E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

さいのかがやき 彩の耀

第161号

平成23年1月25日発行

発行人 荻野勝治

編集人 広報委員会

(委員長 町田浩征)

編集 日本工業経済新聞社

(埼玉建設新聞)

「年頭のあいさつ」



荻野会長

新年明けましておめでとうございます。

新しい年になりましたが、景気は回復もせず、相変わらずの円高・株安で年が明けてしまいました。昨年の通常総会において、会長に推挙され就任してから、早、半年を

経過してしまいました。私は、会長職を引受けてから一貫して、会員の皆様から、「電業の会員で良かった!」「電業に入会して最高!」と言われるような“誇りの持てる協会”づくりを目指して参りました。その為、まずは会員より協会事業運営の現状についてのご意見を広くお聞きするアンケート調査を行いました。

その結果から、1. 会員と非会員の差別化 2. 年会費を下げる方策の策定 3. 一般社団法人に向けての事業改革 の3点を協会の運営方針として掲げ、理事全員が丸丸となって、頑張っている所でございます。

幸いにして、当協会会員企業の技術力は高く、県発注電気設備工事においても、高い評価で完成させ、毎年、優秀建設工事表彰・優秀現場代理人表彰を受賞する会員が多数おります。このような会員が多く在籍していただいているということは、何よりの誇りであります。

さて、県内の中小建設業(専門工事業)の実態は、このところ更に悪化しており、デフレからの脱却には程遠く、もはや業界の自助努力では改善されない所まできております。特に今迄は、より良質で長持ちする材料・技能の優れた労務を使い、品質の高い工事を目指しておりましたが、必要最低限の仕様に合致し、安ければよいとの現在のルールの中での価格競争には慣れておらず、採算を度外視した「ダンピング合戦」になってしまいます。

このような状況下で、公共事業は政府も地方公共団体も大幅に減小しており、採算割りの工事でも“仕事が無いよりはあります”との理由で受注し、契約前払い金、国土交通省が創設された「地域建設業経営強化融資制度」等で、資金繰りを行っています。これでは、健全な経営とは言えず、体力も続かず、いずれ行き詰ること

社団法人 埼玉県電業協会 会長 荻野 勝治

は明白であります。頼みの綱の公共事業費も依然にも増して予算額を削るだけで、何の対策も講じられないままでは、ますます疲弊していただけないのでは…と危惧しております。企業は本業で儲けて法人税を払うことこそが、社会貢献の原点だと思っておりますが、昨今の社会状況では「払いたいのが、払えない」のが現実な事を理解していただきたいと思っております。この押し詰まった協会の現状を埼玉県知事にもご理解いただくために陳情を行いました。

次に、労働力に目を向けると、この6年で100万人もの労働者が建設市場から去ったと聞いております。高齢化が進み、若い労働力の就業率が低下している建設業は、3K(きつい、汚い、危険)に「不安定で先が無い」が加わり更に敬遠されているようです。これもまた、この業界が衰退していく原因と思われるます。

「ものつくりの日本」から、電気設備工事業が無くなる事は決して無いし、無くしてはならないのです。健全な経営の確保、若い世代の人材確保・育成こそが、業界の未来を考える上で、重要であり、急務なのです。若い人材が希望を持って、安心して業界に入ってこられる魅力ある環境づくりが、我々の使命であり、責務なのだと考えております。

この未曾有の時代においては、いかに実践していくかは大変困難ではありますが、会員同志で知恵を絞り、団結して乗り切っていきたいと思っております。

今年こそ、新たな光が射すことを祈念して年頭のこあいさつとさせていただきます。



上田知事に要望書を手渡す荻野会長
左側より神杉県議会議員、上田知事、当協会理事等
(10月12日知事室にて)

新しい時代の扉を開く ～自立自尊の埼玉を創る～



上田知事

埼玉県知事 上田 清司

新年明けましておめでとうございます。社団法人 埼玉県電業協会の皆様におかれましては、健やかに平成2

3年の新春をお迎えのこととお喜びを申し上げます。

昨年は小惑星探査機「はやぶさ」が歴史的な快挙を達成しました。埼玉県も、これまで以上に飛躍する年にしたいと思います。

この20年で日本を取り巻く状況は大きく変わりました。国内では生産年齢人口の減少が起きています。新興国の台頭により世界の経済地図は大きく塗り替えられ、日本経済はまさに厳しい状況に置かれています。

今こそ私たちは、日本をこれからどのような国に変えていくのかという根本的な問題に正面から取り組まなくてはなりません。

「国が何とかしてくれる」ではなく「地方として、会社や団体として、そして一人の国民として何ができるのか」と自立自尊の精神で考え、行動するときが来ています。

そのキーワードは「世界」と「人材」です。

まず「世界」ですが、世界の経済は一つに向かっています。県内企業のイノベーションを支援し、成長産業を育てていくことがとても大切です。昨年開設した上海ビジネスサポートセンターなどを足がかりに県内企業が世界に進出する状況をつくり出していかなければなりません。埼玉をアジアの食料庫にするくらいの気持ちで、強い埼玉農業をつくることも重要です。

また、環境問題が世界の大きな課題になっています。この4月には国に先駆けて排出量取引制度がスタートします。埼玉版グリーンニューディールを進め、成長と環境が調和した社会の姿を示していきます。

「人材」は、日本が世界に誇る最高で最大の資源です。グローバル人材を育成するため、どこにも負けない海外留学支援など県としてできる限りの手を

打っていくつもりです。

このような「未来への投資」と併せて「暮らしの安心・安全」は今まで以上に重要になります。中でも雇用を守ることが最重要課題です。3年間で7万人の雇用創出を目指す「雇用ニューディール」を更に進めるほか、ヤングキャリアセンターなどできめ細かい就業支援を徹底します。

県民の皆様や地域のパワーは埼玉を大きく変える力を持っています。「防犯パトロール」の取組により治安は大きく回復しました。一人一本植樹運動や川の守り人など多くの皆様の御参加により「みどりと川の再生」が目に見える形で進んでいます。さらに、地域で高齢者を支える「地域支え合いの仕組み」も24市町に広がります。昨年は大学生が生活保護家庭の子どもに勉強を教える「貧困の連鎖を止める」活動が新たに始まりました。こうした共助の輪を更に広げていきたいと思います。

昨年末「につけい子育て支援大賞」を受賞しました。県全体での子育てムーブメントが高く評価されました。全国知事会先進政策大賞に輝いた「カーナビ活用による危険箇所の解消」では官民一体の取組により、危険箇所のプレーキ回数が7割減る効果が出ています。人口当たりの職員数が全国一少なくとも、県と民間の方々が知恵を出し力を合わせることで、1+1が3にも4にもなることを実証しました。

地域主権は日本を変える大きな力となるものです。地方が思い切った政策をどんどん実行し、その成功モデルを国に突きつけるしかありません。地方が開く一つ一つの小さな扉が日本を変えていく第一歩です。

幸いこれまで、皆様とともにどこにも負けない埼玉を築いてくることができました。こうした土台を更に強固なものにした上に、世界に羽ばたく埼玉を目指していきます。一緒に新しい時代の扉を開き、明るい未来への第一歩を踏み出しましょう。

技術講習会

電気関係法規を学ぶ



電気技術者のための「電気関係法規」について——をテーマとした、今年度第2回目の技術講習会を12月3日、さいたま市南区の埼玉建産連研修センターで開催しました。

今回は、会員企業だけでなく、県や市町村等の電気技術系職員の方々にも大勢ご参加いただきました。参加者は各々のさらなるスキルアップを目指し、午後1時30分から午後5時までの3時間半、講師の説明と資料を基にしっかり受講されていました。

講習会は、～なぜ電気工事の資格だけではハンドホールに入れないのか～のサブタイトルが付き、8項目の内容で行なわれました。

①法令についての基礎知識②電気事業法関連法規と最近の改正内容③建築基準法に関わる電気関係法令④労働安全衛生法に関わる事業所の安全衛生管理体制⑤

労働安全衛生法に関わる電気工事等の作業に必要な資格と法定教育⑥消防法に関わる電気関係法令と消防設備士⑦エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)の概要⑧その他、建築電気設備に関わる法律及びその目的——の8項目の内容で行なわれました。



100人近くが受講した第2回技術講習会=建産連大ホールで

今回の講習会について荻野会長は「日ごろの実践と今回を含めた講習会で、皆さんには知識は十分付いていると思う。その知識をいかに活用するかがポイントになる。本日の講習会を実りあるものとし、知識に意識をプラスして今後も活躍してほしい」と期待を込めていました。

三県連絡会議

変化に対応した生き残り対策について検討!



埼玉・神奈川・千葉の各県電業協会の代表者による三県連絡会議が去る平成22年11月24日(水)東京電業会館会議室に於いて開催されました。

始めに、今回の開催県である(社)千葉県電業協会並木会長より「ダーウィンの進化論に「変化に対応した強い種が生き残る」とある。我々もこの苦しい時代に生き残るための対策を考えていこう。」と挨拶がありました。

議事として、まず初めに(社)埼玉県電業協会からの提出議題である「三県同盟による発注者側への要望」に

ついて意見交換されました。その中で、上下水道プラント工事については、各県でも特定建設工事共同企業体へ発注が可能となるよう現時点に至るまでできる限りの手段を取ってきていることで一致し、各県が実現すればとの思いであることを確認いたしました。この件は、重要課題として次回も意見をもち寄り継続審議とすると決議いたしました。

この他、各省庁によって多岐に亘る電気工事に関係する資格を一本化できないかといった議題に対し、電気工事技術者として資格で守られている部分もあるため内容を吟味する必要があるのではないかとこの意見がありました。

また、公益法人改革に伴う移行準備状況・県、国土交通省との防災協定の締結状況について討議されました。

今回の会議にて継続とされた議題について、来季(開催県：埼玉県)にて再度情報を交換することを確認し、閉会となりました。

企業対策セミナー

非会員との差別化を



10月21日、東日本建設業保証(株)埼玉支店と共催で平成22年度企業対策セミナーを、さいたま新都心のホテルブリランテ武蔵野で開きました。

今年度のテーマは、①不況を乗り切るための経営思考「耐える、学ぶ、考える、そして創造する」②「不良債権保全支援事業」と「建設業経営強化融資制度」の2つの内容で行なわれました。

第1部は、「元銀行支店長が本音で語る」のサブタイトルで始まり(株)建設経営サービスの関口清氏にご講演いただきました。

講演内容は、▽2010年の日本経済の動向について▽海外経済の動向▽民主党新政権の政策▽不況下を乗り切るための経営思考などについてお話いただきました。

この中で関口講師は日本経済について、「ねじれ国会もあり、何事も常にリスクをもって考えることが重要」。また、海外経済の動向については「ユーロ圏の減速傾向、中国人民元の切り上げによる影響、アメリカ経済の不透明感など、それに伴うデフレ・円高・2

番底が非常に懸念される」と注意を促しました。

第2部は、同じく(株)建設経営サービスの鳥海剛志氏をご担当され、年末を控えタイムリーなテーマを用意しましたので今後の経営の参考にして下さいと前置きしたうえで、配布した資料を基に資金調達には前払金の有効活用や、中間前払金制度についての説明を行ないました。

今回のセミナーについて岡村一巳副会長は、「会員と非会員の差別化を図り「会員でいて良かった」と言える会員のための事業実施や制度改革を今後も積極的に行なっていく」と述べて、事業推進への協力を呼びかけていました。



東日本建設業保障(株)と共催で行われた企業対策セミナー(壇上はあいさつする岡村副会長)

「平成22年度電気工事技術研修会」にあたって

人材育成委員：内山 祥章（内山電設株式会社）

ここ数年、新卒者の就職難のニュースをよく耳にします。厚生労働省の新聞発表によると就職内定率は大学卒57.6%（10/1現在）、高校卒40.6%（9/未現在）だそうです。

このような厳しい現状の中、人材育成委員会では、県内技術系学校へ訪問し、入学・就職状況等の情報交換を行って参りました。その際、ある工業高校の進路指導の先生から、実際の工事現場を見学し、電設業界の仕事の深く理解することで、学生により具体的な就職指導が出来るのではないかとのご意見を頂きました。早速、委員会で検討を重ねた結果、「平成22年度電気工事技術研修会」と題し11月30日、県や現場等関係各所にご協力を頂き2部構成で実施することとなりました。

1部の現場研修会では、現在施工中の「危機管理防災センター（仮称）」（浦和区仲町）を見学しました。RC造ならではの資材や工法、現場における安全衛生の努力向上を見て頂くことで、よく言われている「3K（きつい 汚い 危険）」を少しは払拭して頂けたのではないかと思います。

2部の意見交換会では、「プリムローズ有朋」（浦和区高砂）に会場を移して行いました。企業の求める人材、資格の必要性、就業の現状、電気料への進路希望者減少…など内容は多岐にわたり、貴重なご意見・ご要望が数多く、大変勉強になりました。先生方におかれましては忌憚のないご発言に感謝申し上げます。

その中で興味深かったのが「とても優秀な学生が内定をもらえないのは何故か」という質問でした。各委員より様々な見解が示されましたが、先生方の「優秀な生徒」が企業の「求める人材」と必ずしも一致していない事に気付かされました。また、話の中で、採用面接では、「永く勤める意志のある人か」「目標を持って努力し続けられる人か」が各社共通で重要視されており、近年の若手社員定着率低下等の課題が浮き彫りになっていると感じました。これから我々企業は、もっと学校と連携して「人材」について考えなくてはいけないのかもしれないかもしれません。企業は「人材」で成り立っているのですから…。

今回の研修会開催に当たり、携わって頂いた多くの方々に感謝申し上げます。また、行き届かない点が多々あったかと思いますが、この反省を今後の委員会運営に役立たせて頂きたいと思っております。

最後に、就活中の学生さんへ一言。あなたを求める企業がきっとあります。めげることなく、厳しい就職活動だと思いますが頑張ってください。御祈念申し上げます。

最後に、就活中の学生さんへ一言。あなたを求める企業がきっとあります。めげることなく、厳しい就職活動だと思いますが頑張ってください。御祈念申し上げます。



「荒川・下水道フェスタ2010」の参加について

「次世代を担う子供たちへ電気工事のPR」

昨年度に引き続き、「荒川・下水道フェスタ2010」（10月9日（土）、荒川水環境センターにて開催）に参加いたしました。このフェスタは、毎年、埼玉県・（財）埼玉県下水道公社が主催し、河川等の自然環境の保護の大切さの理解、下水道を含めた地球規模の環境保全の理解と協力を得るために開催しております。人材育成委員会ではその場をお借りして、小学生などのお子さんやそのご家族を対象に電気設備工事業界を広くアピールいたしました。

当日は雨の中、フェスタには2千5百人を超える入場者がありました。当協会主催のイベントは、野外で行う「高所作業車体験コーナー」が雨のため中止となり、工事車両としての展示になってしまいましたが、室内で行う「ソーラーパッタ工作コーナー」は、3回に亘り実施し、75名の子供たちで賑わいました。「エコ展示コーナー」では、IHクッキングヒーターやLED電球の実物展示をはじめ、パネルやポスター、パンフレットを展示・配布し

ました。また、多くの賛助会員様より景品のご協力をいただきました「スタンプラリー」では、100名を超える沢山の方が参加され、大変好評でした。

今後もこの様な次世代への電設業界のPR活動を積極的に取り組んで参りたいと思っております。



ソーラーパッタの制作風景



IHクッキングヒーターの展示

埼玉県優秀建設工事表彰

埼玉県が発注した建設工事について、その工事を優秀な成績で完成した建設業者、現場代理人等を技術の向上、適正な施工の確保の模範となるとして、毎年表彰していただいております。

平成22年度の電気設備工事部門で、そのほとんどを電業協会会員が受賞しました。受賞した工事は次のとおりです。

平成22年度埼玉県優秀建設工事施工者表彰（埼玉県知事表彰）

○特別奨励賞<設備部門>	瑞穂電設(株)	機動センター庁舎新築電気設備工事	（警察本部施設課）
--------------	---------	------------------	-----------

平成22年度県土づくり優秀建設工事施工者表彰（埼玉県各課所長表彰）

○住宅課長表彰	高山電設工業(株)	19県住岩槻諏訪山下団地B地区第1工区電気設備工事
○設備課長表彰	埼玉電設(株)	総簡加) 09浦和工業高校ほか2校太陽光発電設備設置工事
○営繕工事事務所長表彰	(株)東電工業社	09吹上高校普通教室棟全体改修その他電気設備工事

平成22年度県土づくり優秀現場代理人等表彰（埼玉県各課所長表彰）

○住宅課長表彰	現場代理人 熊谷 智哉	高山電設工業(株)	19県住岩槻諏訪山下団地B地区第1工区電気設備工事
○設備課長表彰	現場代理人 菅原 一彦	埼玉電設(株)	総簡加) 09浦和工業高校ほか2校太陽光発電設備設置工事
	現場代理人 大橋 昭夫	内山電設(株)	総簡加) 09歴史と民俗の博物館大規模改修電気設備工事（Ⅱ期）
○営繕工事事務所長表彰	現場代理人 永井 昭彦	(株)東電工業社	09吹上高校普通教室棟全体改修その他電気設備工事

<敬称略>

わんぱくトライアスロン ～諦めない気持ちを育む～

協会だより
南部支部

南部支部長 (株)奥富電気工事 代表取締役 奥富精一

4年前の2007年から川口市の青木公園を中心に「わんぱくトライアスロン」が開催されています。この競技は小学校4年生から6年生までの児童がスイム50m、バイク4km、ラン1kmを完走しタイムを計る競技です。当初は250名の参加でしたが4回目を迎える今回は400名を超える大会になってきています。8月最終の土曜日に行われるこの大会ですが酷暑にも負けずに多くの子ども達が自ら課した目標に向けて競技に参加します。

子どもたちに諦めない気持ちを持ってもらい、色々な困難から逃げないでほしい。そして、この大会に地域の大人たちが大勢ボランティアとして携わっている事を、参加した子どもたちが大人になる過程で気付いてくれれば、そのまた子ども達にも愛情を持って接する事が出来るようになる。と言うのが主催である社団法人川口青年会議所の想いです。

競技に参加する子どもたちは、朝早くから緊張した表情で集まってきます。最初のスイムは4年生の女子から6年生の男子まで順番にグループ分けされて行われます。参加する子どもたちは全員とも泳ぎが出来るわけではなく、途中足をついても構いません。25mプールを往復しゴールするまでに一生懸命泳ぎます。中には川口市水泳連盟の方たちが安全を確保する為に見守ってくれています。泳ぎ終わった子どもは足早に次のバイクに進んでいきます。ヘルメットを被り自転車にまたがり、公道を駆け抜けていきます。眼は真剣そのものです。道路からは声援が飛び、保護者やボランティアも一生懸命応援します。中には転んでしまう子どももいますが、諦めずに競技に参加します。バイクも4km走り終える頃には、疲労もピー

クです。そして、残りのラン1kmに入ります。子どもたちは必死の形相で青木公園のランニングコースを走り抜けます。周囲にわき目も振らず一心不乱の姿は、応援している私達にも一心同体の気持ちにさせて買えます。最後の陸上競技場のトラックに入ってラストスパートですが、ここが一番辛そうです。残りの100mですがここまでくれば、もう完走しかありません。そしてゴールをすると、疲れた顔から、清々しい笑顔にみんな変わって行きます。

競技に参加して、子どもたちは走る事を諦めない、ゴールと言う目標を諦めない限りゴール出来るのだと言う事を実感します。応援している私達も諦めない事が大切だと言う事を子どもたちの直向きな態度から学び、気付きます。多くの困難がある人生ですが、やはり大切なのは目標を持ち向き合う姿勢、諦めない気持ちは言葉では簡単ですが、仕事だけではなく、このような競技からも再認識するのではないのかと思います。



「2010年」

Voice

(株)栗原電機 取締役専務 栗原一也

2011年も無事明け、正月気分もやっと抜けた今日この頃、改めて昨年(2010年)について自分なりに回想してみたいと思います。

2010年の事を回想してみますと、とにかく熱かったと言う言葉が色々な場面で浮かんで来ます。まずは年明け早々のバンクーバー五輪、開会式前のリュージュの選手の悲しい事故等有りましたが心に残っているのは里谷多英の熱い滑り、感動しました。上村愛子の守りの滑りに対して、一発逆転狙いの攻めの滑り。周りの評価はともかく、あの舞台であの滑りをしてくるとは久しぶりの勝負師を見たと感じ、私的には今回の五輪でのベストパフォーマンスだと思えます。あの滑りはきっと次回に繋がる事でしょう。

そして閉会式ではなんとニール・ヤングのライブ、以前、フジロックの苗場で見たと同じ条件等全然悪いのにあのオリティ流石です。ニール・ヤングやジミーペイジが五輪の閉会式に出るなんて一昔前では考えられなかったですね。

それからはサッカーW杯の南アフリカ大会。これも熱かったですね。寝不足の日々が続きました。本番前の数試合を見た感じでは、こりゃダメだと思いつ選敗退を想定していたんですが、まさか予選突破出来るとは。それとま

た熱かったのは治安の悪さ、強盗、強姦、エイズの蔓延、なんてこうなってしまったんでしょうね。以前アパルトヘイトのあった時代には、治安も良く街も綺麗でヨハネスブルグやケープタウンなど何時かは観光に行きたいなあと思っていたのですが、すっかり変わっちゃったみたいですね。この状態が続いたら企業の撤退、農場の廃棄、白人の脱出等で、いずれローアジアみたいに国自体無くなってしまうのではないかと思います。以前は、モータースポーツやテニス、ゴルフ等で名選手を多数輩出してきましたが、今後はそんな事も無くなるでしょうし、白人文化自体消えてしまうのではないのでしょうか。そもそもあの国を開拓してきたのは、黒人ではなく清教徒の白人移民だって事、すっかり忘れ去られてます。大統領自身8人の奥さん抱えて子供も20人いるという国に、一人一票の普通選挙、必要でしょうか？まずは一夫多妻制を止めるとか根本的な教育が必要なんじゃないでしょうか。でもこれも時代の流れで自由化ってヤツでどうにもならないでしょうね。

そしてW杯終わって一息と思ったら始まりました、異常な夏。何する気も起きないほどの異常な暑さ。日本中この異常気象のおかげで去年はすっかり熊谷の暑さが影薄くなってしまったような気がします。その後ホント短かった秋、他にも色々私的にも熱い出来事有りましたが本当に熱い年でした2010年。

協会のうごき

11月

- 9日 第7回人材育成委員会
- 11日 中間監査
- 16日 第3回常任理事会
第3回公益法人制度改革委員会
秋季三県連絡会議【千葉県当番】
- 24日 第8回人材育成委員会
- 26日 県設備課との意見交換会／三役会議
- 29日 電気工事技術研修会

12月

- 3日 第2回技術講習会
- 21日 第7回理事会／役員懇親会
- 28日 仕事納め

1月

- 5日 仕事始め
- 11日 官公庁 新年挨拶回り
- 28日 広報委員会／人材育成委員会

2月

- 1日 事故防止対策委員会
- 2日 企業対策委員会
- 8日 技術研究委員会
- 9日 総務委員会
- 15日 第8回理事会
第4回公益法人制度改革委員会

荻野会長に知事表彰

荻野会長が建設業の産業団体の役員として長年にわたりその発展に尽力し、特に功績顕著であることから、埼玉県表彰規則に基づき産業功労者として、11月14日の県民の日に埼玉会館大ホールにおいて上田知事から表彰を受けました。誠に有りがたく感謝申し上げます。



(社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (19社)

- 旭電気工業㈱(大宮区)
- 浦和電気工事㈱(南区)
- 大塚電設㈱(浦和区)
- ㈱岡村電機(緑区)
- 国益電設工事㈱(南区)
- ◎埼玉電設㈱(中央区)

(さいたま市)



- 三洋電設㈱(南区)
- 新生電気工事㈱(見沼区)
- 竹内電気㈱(岩槻区)
- ㈱積田電業社(浦和区)
- 中村電設工業㈱(見沼区)
- 浜野電設㈱(北区)
- ㈱万代電気工業(桜区)
- 瑞穂電設㈱(北区)
- ㈱八洲電業社(北区)

東部支部 (10社)

- ㈱内田電気商会(久喜市)
- ㈱大久保電気(越谷市)
- ㈱三進電気工事(上尾市)
- 島村電業㈱(上尾市)
- ㈱新電気(三郷市)
- ◎㈱大広電気(八潮市)
- 太平洋電設工業㈱(越谷市)
- ㈱高岡電気工業(松伏町)
- ◎野口電気工事㈱(越谷市)
- ㈱弓木電設社(白岡町)

西部支部 (17社)

- ㈱新井電機(飯能市)
- 飯島電器工事㈱(川越市)
- ㈱市之瀬電設(志木市)
- ㈱岡島電気商会(川越市)
- ㈱おぎでん(川越市)
- 熊田電気工事㈱(狭山市)
- ㈱三共電気商会(和光市)
- ㈱関根電気商会(川越市)
- ◎相馬電業㈱(和光市)
- ㈱電成社(川越市)
- 橋電㈱(所沢市)
- ㈱橋本電工(所沢市)
- 浜田電機㈱(坂戸市)
- フジヤ電気工事㈱(川越市)
- ㈱松本電機(和光市)
- ㈱明電社(川越市)
- ㈱ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

- 三位電気㈱(川口市)
- 高山電設工業㈱(川口市)
- ㈱田井電気(鳩ヶ谷市)
- 釣谷電機㈱(川口市)
- 那須電機工業㈱(川口市)
- 領家電設㈱(川口市)

北部支部 (16社)

- イーテクノス㈱(熊谷市)
- ㈱エコー(深谷市)
- 岡根電気工事㈱(本庄市)
- 小沢電気工事㈱(行田市)
- 共和電機㈱(秩父市)
- ◎熊谷電機㈱(熊谷市)
- ㈱栗原電機(深谷市)
- 霜田電気㈱(皆野市)
- 中外電気工業㈱(深谷市)
- ㈱東電工業社(熊谷市)
- ㈱長井電機(熊谷市)
- ㈱沼尻電気工事(深谷市)
- ㈱早川電工(行田市)
- 松山電設㈱(東松山市)
- ムサシ電機工業㈱(行田市)
- ㈱羅連電気(深谷市)

南部支部 (11社)

- 内山電設㈱(川口市)
- ◎㈱奥富電気工事(川口市)
- 川島電気㈱(川口市)
- ㈱佐久間電設(川口市)
- 佐野電機㈱(川口市)

雇用・能力開発機構では、雇用管理に関する事業を行っており、公的資格取得や能力開発のための各種事業及び助成金を行っていますので、お気軽に協会窓口まで、ご相談下さい。

独立行政法人 雇用・能力開発機構埼玉センター

〈雇用開発業務〉

良好な雇用機会の創出と雇用環境の改善を図るため、新分野進出の支援をはじめ雇用管理全般の相談・情報提供等を行うほか関連の助成金支給や勤労者の財産形成促進等を業務としています。

〈能力開発業務〉

離職者のための機動的な委託訓練コースや在職者に対する能力開発セミナーなど職業訓練を実施するとともにキャリア形成に関する相談・情報提供、助成金支給等を業務としています。

◆電話 048-882-4164 [建設労働・財形担当]

◆FAX 048-882-4166

◆所在地 〒336-0931 さいたま市緑区原山2-18-8